

岩手医科大学歯学部 卒業時アンケート

I 以下の質問に対し、当てはまると思う目盛りに○を付してください。

1. 岩手医科大学歯学部のディプロマ・ポリシーを知っていましたか。(別紙1に原文を記載しています)

全く知らない		知っているが 理解していない			よく理解している	
21	6	8	7	3	0	2

2. 現在、あなたの学習成果はディプロマ・ポリシーに示す目標に到達していると思いますか。

全く到達していない		一部到達している			十分到達している	
3	5	8	23	5	0	3

3. 現在のあなたの能力(知識、技能)で歯科医師臨床研修を受けることに自信はありますか。(別紙2に歯科医師臨床研修の到達目標を記載しています)

全ての項目に 自信なし		一部の項目に 自信なし			全ての項目に 自信あり	
1	8	9	21	7	0	1

特に自信のない項目

- ・治療計画の立案 ・手技 ・補綴 ・口外 ・支台歯形成 ・高頻度治療
- ・診査・検査所見の判断 ・保存 ・義歯 ・麻酔 ・社会歯科 ・抜歯 ・有床
- ・歯内治療 ・基本的治療

4. 卒業までのカリキュラムはディプロマ・ポリシーに示す目標の到達に役立ったと思いますか。

全く役に 立たなかった		どちらとも いえない			すごく 役立った	
2	2	4	25	10	2	2

5. 卒業までのカリキュラムは臨床研修を受ける準備として役立ったと思いますか。

全く役に 立たなかった		どちらとも いえない			すごく 役立った	
0	0	1	17	16	6	7

6. 本学の卒業生となることを誇りに思いますか。

全く思わない		どちらとも いえない			とても 誇りに思う	
0	2	0	19	14	8	4

II 以下の質問に対し、当てはまると思う項目にチェックしてください。

1. 本学在学中に自分が歯科医師となるうえで向上したと感じるのはどれですか。(複数選択可、最も向上したと感じる項目には◎をつけてください)

態 度	倫理観	モチベーション	体 力	精神力(忍耐力、 集中力など含む)
15	14	20	14	21

コミュニケーション能力	一般常識	基礎医学的学力	臨床医学的学力	診断能力
16	8	27	25	26
治療技術	技工技術	その他		
21	21	1 (国語力)		

2. 本学在学中に自分の向上に役だったと感じるのはどれですか。(複数選択可、最も役だったと感じる項目には◎をつけてください)

教養系講義	基礎医学系講義	臨床系講義	基礎実習	臨床実習
6	21	30	17	32
高次臨床実習(スタディアプロード含)	体験型実習(介護看護、歯科専門体験等)	チーム医療関連講義・演習	ソサエティ制度	オフィスアワー
10	8	4	10	0
クラブ活動	その他			
17				

3. あなたが本学の教育に関することで改善が必要と考えていることはどれですか。(複数選択可、最も必要と感じる項目には◎をつけてください)

入学制度	カリキュラム	講義	教員の教育能力	設備・施設
14	19	17	12	12
進級判定制度	試験制度	CBT 対策	国家試験対策	その他
11	8	2	14	32

4. あなたは将来、歯科医師としてどのような就業形態を希望していますか。(複数選択可、最も強く希望するものには◎をつけてください)

開業医	勤務医	臨床系大学職員	研究施設勤務 (基礎系大学職員含)	行政職
28	22	9	6	0
歯科医師として働くつもりはない		その他		
1				

卒業時アンケート結果の分析

歯学部教務委員長 岸 光男

岩手医科大学歯学部では、最終学年である第6学年に卒業判定を行い、平成30年度の卒業が認められた学生47名に対してディプロマ・ポリシーに基づいたアンケート調査を行いました。

ディプロマ・ポリシーとは、歯学部学生が卒業時に身につけているべきと考える要件で、我々の歯学部教育はそこに到達することをめざして行われています。アンケートの内容は、学生のディプロマ・ポリシーへの認知度や意義、卒業時に身につけている歯科臨床能力への自己評価、卒前教育全体への評価、将来希望する就業形態、などから構成されています。

以下にアンケート結果の概要と分析および今後の対応を記します。

1. ディプロマ・ポリシーの認知度

ディプロマ・ポリシーについて卒業時に全く知らないと回答した者が21名(44.7%)にのぼりました。ディプロマ・ポリシーを含めた3つのポリシー(入学者受入方針であるアドミッション・ポリシー、教育課程の編成・実施方針であるカリキュラムポリシー、学位授与方針であるディプロマ・ポリシー)は、近年文部科学省が推進する大学教育改革の柱で、2017年から大学による策定と公開が義務づけられたものです。ですから、学生のみならず、教員にも十分には浸透していない概念です。むしろよく理解はしていないものの「知っている」と答えた学生が18名、よく理解していると答えた学生が2名もいたことに驚いています。

今後、よりこの概念を学生と教員に理解してもらい、学生も参加したよりよいカリキュラムへの改善の基盤にしていきたいと思えます。

2. 卒業時の能力に対する自己評価

「一部の項目に自信なし」と回答した者が最も多く、これは当然のことだと思います。歯科医師は卒業後、1年間の臨床研修が義務づけられており、そこではある程度の臨床能力を有していることを前提にプログラムが進行しますから、不安を持つ方が普通のことでしょう。卒業時にこのような簡単な自己評価をすることは臨床研修を行う準備として有効かもしれません。

3. 卒前教育全体への評価

歯科医師の能力として在学中に最も向上したものは何かという問いに対して、「基礎及び臨床医学的学力」、「診断能力」と回答したものが多く、次いで「治療技術」でした。また、在学中最も役に立ったものとして「臨床実習」を選んだ者が最も多く、座学的な知識のみならず、臨床的技能も向上したと感じる学生が多いという結果でした。岩手医科大学歯学部では5年生で1年間、患者様の協力を得て、指導歯科医の管理の下実際に診療を行う「臨床実習」を行っています。患者様の協力と我々の指導が学生のためになっていることが示され、我々教育する側にとって励みになったと同時に、協力いただいた患者の教育への大きな貢献を感じ、こころより感謝申し上げる次第です。

一方で、改善すべき項目については「カリキュラム」と答えた者が最も多く、次いで「講義」でした。これらは我々教員側が甘んじて受けるべき指摘であり、ディプロマ・ポリシーのところで記したように、学生と教員が共に教育プログラムを改善していく方針をとるうえでの大切な資料したいと思います。

4. 将来希望する就業形態

将来希望する就業形態として最も多かったのは「開業医」、次いで「勤務医」でした。大学や研究施設勤務を希望した者は15名(31.9%)でした。この比率が適切かどうかはわかりませんが、少なくとも3割以上の学生が教育・研究職を目指していることに、頼もしさを感じます。将来のよい歯科医師を育成するためには、次世代の教育・研究者を養成する必要があるからです。卒業時のそのようなモチベーションを維持できるように、臨床研修も継続的に改善していきたいと思えます。

まとめ

岩手医科大学歯学部卒業生のアンケート結果から、現在の学生教育の良い点と不足している点が見えてきました。また、不足していることに対して改善するための方向性もこのアンケート結果がある程度示していると思えます。今後もこのアンケート調査を継続し、卒前教育とその後の臨床研修の改善に役立てたいと思っています。